

## 経営改善目標の達成に向けた取組状況

### 1 法人の概要（令和2年7月1日現在）

法人名	(公財) 神奈川文学振興会				
設立年月日	昭和57年4月1日 (名称変更:平成23年4月1日)	代表者名	理事長 村上 博		
所在地	横浜市中区山手町110	電話番号	045-622-6666		
基本財産等	110,000,000 円	県出資額	53,000,000 円	県出資率	48.2 %

### 2 法人運営における現状の課題

○当財団は指定管理者として神奈川近代文学館の運営に当たっている。令和元年度の特別展では、春に松本清張、秋に中島敦をとり上げた。また、企画展では、初夏に評論家・江藤淳、夏季に絵本作家の西巻茅子、冬季には演劇人・岩田豊雄（本名）としても活躍した獅子文六などジャンルや活動時期の異なる多彩な文学者をとり上げた。

年間展示観覧者数は、6年連続で4万2千人を超え、好調を維持できた。夏の西巻茅子展は、若年層から中高年まで幅広い世代からの関心を集め、1万3千人を超える来場者を迎え好評であった。秋の中島敦展ではコミックスとのコラボレーションにより、若年層の動員を伸ばすことができた。そのほかにも、館蔵資料の充実を図り、それを活用し、県にゆかりの深い文学者を扱った当館ならではの企画展等を実施するなかで、全体として高い成果をあげることができたと考える。今後も集客と収益の両面に配慮しつつ、とり上げる作家の動員力を見極め、効果的な広報活動を実施して来館者と利用料金収入を確保したい。

○展示企画に連動した講演会等の行事、高等学校文化連盟図書専門部との協力事業、児童向け行事を含む文字・活字文化振興事業などのイベントを年間で大小94回実施した(新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策による中止<7回>を除く)。また、文字活字文化振興の一つであるパネル文学展巡回事業では年間32回の開催、参加者は約2万4千人となり好調を維持した。同時に中・高・大学などの教育機関、類似施設、出版社、企業団体とのイベント共催などを実施し、館利用者数の増大と知名度の向上を図った。今後もジャンルを超えた民間事業者とのコラボレーションや県内外の教育・研究機関と連携した話題性のあるイベントを開催し、若年層を中心にあらゆる世代へ周知を行い、動員増を図ることが必要と考える。

### 3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

\* 項目ごとに、下段の( )内に目標を、上段に実績を記載してください。

#### 【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
1	利用者数(展示・閲覧・会議室利用)	人	73,166 ( 65,000 )	75,601 ( 65,500 )	70,427 ( 66,000 )	73,007 ( 66,500 )	( 67,000 )	A
	自己評価(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年3月4日から展示室・閲覧室が臨時休室となったにもかかわらず、春の松本清張展、夏の西巻茅子展、秋の中島敦展の好調により、前年比103.7%を達成した。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
2	若年層向け行事参加者数(かなぶんキッズクラブほか)	人	1,308 (1,040)	1,127 (1,060)	1,170 (1,080)	944 (1,100)	(1,120)	B
	自己評価(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	夏休み期間に紙芝居、子ども映画会、絵本の読み聞かせなどのイベントを実施。西巻茅子展に連動させたことで、多くの親子連れが参加して盛況となった。また、高等学校文化連盟等との共催行事も実施し、中高生の来館数の増加を図った。新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により令和2年2月下旬からの若年層向けのイベントが中止になり、目標には届かなかった。				新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しつつ、若年層向けオンラインコンテンツ等イベント以外にも事業の方向性を見出したい。			
	備考							
No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
3	パネル巡回文学展の実施校数	件	24 (14)	33 (14)	39 (14)	32 (14)	(15)	A
	自己評価(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	県内を中心に小・中・高等学校の図書室等へのパネル文学展の巡回を実施。目標を大きく上回り、3年連続で30件を超える利用があった。夏目漱石展パネルに加え、森鷗外展、中島敦展などが多く活用され、令和元年度は秋の特別展の成果を踏まえ中島敦展の改訂を行った。							
	備考							
No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
4	HPアクセス数	件	195,748 (140,000)	185,616 (150,000)	221,942 (160,000)	260,988 (170,000)	(180,000)	A
	自己評価(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	松本清張展、江藤淳展会期中のラリーイベントや中島敦展でのコミックスとのコラボレーションを活用した若年層の取り込みを通じ目標値を大幅に上回るアクセス増を図ることができた。HPに加え、SNS等での発信も積極的に行っている。							
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
1	利用料金収入	千円	15,522 ( 8,974 )	13,581 ( 9,024 )	14,024 ( 9,074 )	15,037 ( 9,124 )	( 9,174 )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	前年度と比較すると、夏に開催した「西巻茅子展」で20～65歳未満の入館者数が大きく増加し、入館料が割引となる65歳以上の入館者数が相対的に減少したため、観覧料収入が増加した。また、会議室利用料についてもホール使用回数の増加等により増加し目標を達成した。							
	備考							
No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
2	事業収入	千円	8,038 ( 6,429 )	6,136 ( 6,479 )	5,715 ( 6,529 )	6,050 ( 6,579 )	( 6,629 )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月下旬からのイベントが中止、3月4日からは展示室も臨時休室となった。そのため3月中旬からの開催を予定していた大岡昇平展での図録販売収入もなくなり、目標達成が叶わなかったが、臨時休室以前の展覧会の好調に牽引され目標達成間近であったため、A評価とした。				図録の郵送販売や講演会等イベントの代替聴講手段を活用し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しつつ、収入の確保に努めたい。			
	備考							
No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
3	「神奈川近代文学館友の会」の会員数	件	1,038 ( 990 )	1,039 ( 1,000 )	994 ( 1,010 )	1,052 ( 1,015 )	( 1,020 )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	友の会の会員数は、年間の観覧者数にほぼ比例して増減する。年間観覧者数が前年比108.5%と好調で、友の会会員数も前年比105.8%となり目標値をクリアすることができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	元年度自己評価
4	年間電力使用量	kwh	788,556 ( 783,000 )	778,180 ( 782,500 )	771,442 ( 782,000 )	741,580 ( 781,700 )	( 781,500 )	A
	年間電力料金	千円	16,288 ( 19,100 )	17,400 ( 19,400 )	18,744 ( 19,100 )	18,461 ( 19,050 )	( 19,000 )	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）					今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）		
電気料金の節減を図るため各所管繕工事により照明のLED化を進捗させたほか、指定管理料内でもLED化を継続して行い光熱費の抑制を図った。電力使用量の節減によって目標値以下の電気料金に抑制することができ、十分な成果を上げることができた。								
備考								

#### 4 取組実績等についての総括（法人）

○特別展2回、企画展3回の計5回の企画を行うことで動員増を図り、安定収入を継続して確保できるよう取り組んだ。例年、年度末から開催していた春の特別展は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未開催となったが、観覧者数、利用料金収入ともに昨年を上回ることができた。事業収入においても、感染症拡大防止のための臨時休館の影響がなければ、目標値を上回る見込みであった。今後もバランスのとれた事業を展開することで、これまでの利用者数や観覧料収入のレベルを維持できるよう心掛けたい。

○県内小・中・高等学校への巡回パネル文学展については、これまで文学館活用研修会などを継続してきた成果が実り、学校側の受入れ体制も徐々に整備されたことで昨年度に続き好成績を上げることができた。事業専門員を専従で配置し、高文連や小・中・高校との連携を図った成果が表れている。

○外部組織と提携した講演会や朗読会、文芸映画会などを展覧会と連動させて共催し、展示動員を図りつつ生涯学習支援の活動にも力を注ぎたい。

#### 5 取組実績等についての総括（所管課）

○令和元年度は、展示室・閲覧室・会議室の利用者数で、達成率109.8%と目標を大きく上回った。特別展・企画展の年間入場者数は45,949人にのぼり、6年連続で4万人台を記録し好調を維持した。秋に開催した「中島敦展」では、コミック「文豪ストレイドッグス」とのコラボレーションにより、若年層の入館者数を伸ばすことができ、総入場者数は10,525人に上った。

○夏季に開催した「西巻茅子展」では、絵本の読み聞かせイベント等を連動して実施したことで、幅広い世代の関心を集めた。また、高等学校等に展示パネルの貸出を行う「パネル巡回文学展」の実施校数は32校となり、目標を大幅に達成するとともに、3年連続で30件を超える利用となった。このような取組は若年層が文学に親しむきっかけになるため、今後も継続していくことが期待される。

○利用料金収入は前年度より増額となり、目標を超えて達成することができた。事業収入については目標を達成することができなかったが、図録等の売り上げに左右される部分ではあるので、引き続き販売率向上に努めてほしい。また、友の会会員は、前年度の実績を上回り、目標を達成できた。友の会等の固定的な利用者を確保することは安定的な経営を続けるために重要であるため、引き続き、新規開拓へ向けて積極的な取組を期待する。

○昨年度に引き続き照明のLED化を徐々に推進し、年間電力使用量及び年間電力電気料金はともに目標を達成することができた。今後も様々な側面で経費削減に向けた工夫を続けていくことが期待される。